

# 高知県長期漁海況予報

## 平成23年下半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成23年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成23年1月から6月を予測期間とした「平成22年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況

黒潮：都井岬沖の小蛇行は、1月にその一部が東進、2月に再発達、3～4月に四国沖を東進する。小蛇行形成に伴う都井岬沖の離岸傾向は3月まで継続する。その後は接岸傾向で推移する。足摺岬沖～潮岬沖では、接岸傾向であるが、都井岬沖の小蛇行の東進に伴い離岸し、その後は接岸傾向となる。

沿岸水温：「平年並み」で推移する。

#### 漁況

サバ類： 前年並み

マアジ： 前年並みから上回る

マイワシ： 散発的で前年並みから下回る

ウルメイワシ： 前年並みから上回る

\* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

# 海 況

## 【海況の経過（平成22年8月～12月）】

### 1 黒潮

足摺沖では、7月上旬から8月中旬まで「接岸」傾向が継続し、8月下旬から9月上旬にかけて「やや離岸」しました。9月中旬には「かなり離岸」となりましたが、10月上旬からは「接岸」傾向となっています。その後、12月中旬より「やや離岸」傾向が継続しています。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25 、 <45
かなり離岸	45 、 <65
著しく離岸	65

室戸岬沖では、7月下旬から9月下旬まで「接岸」傾向が続き、その後、10月中旬に一時的に「やや離岸」となるも、10月下旬からは概ね「接岸」傾向が続いています

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ「接岸」～「かなり離岸」で推移しました。

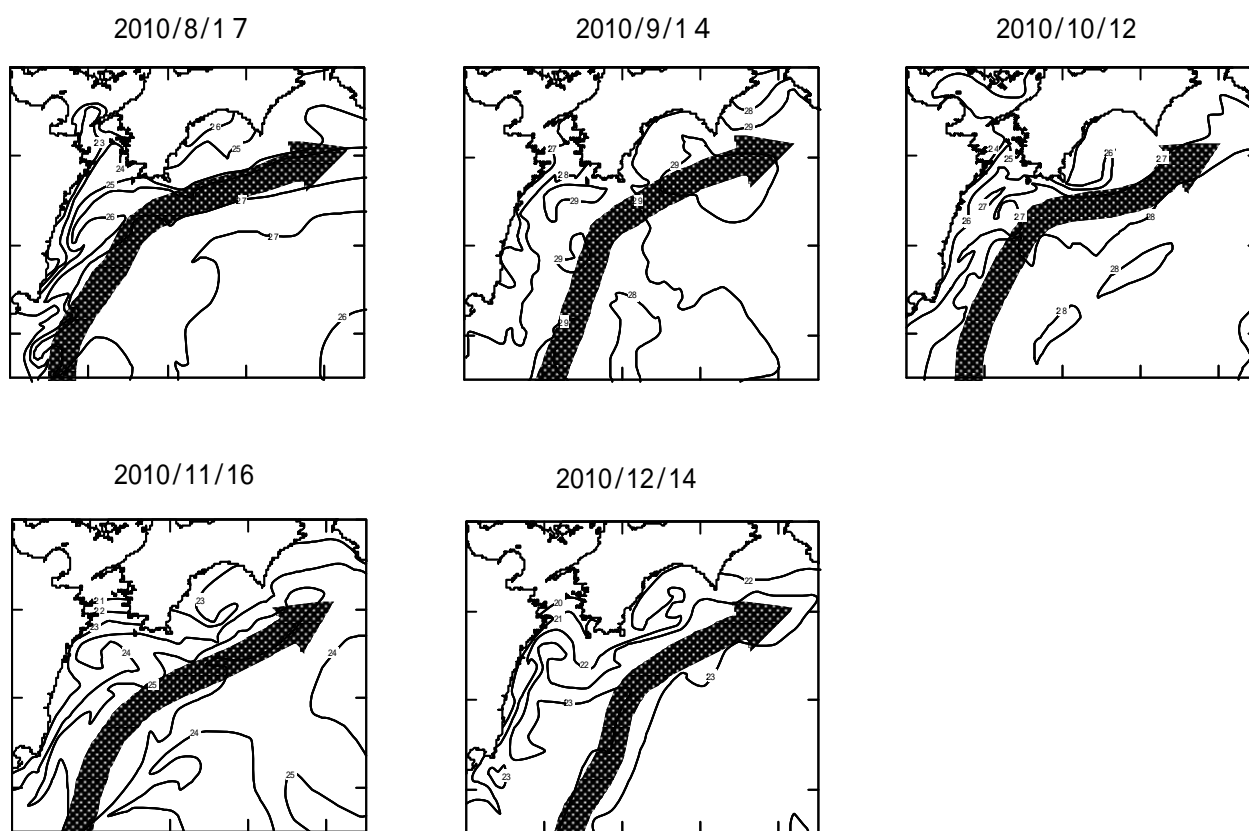


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

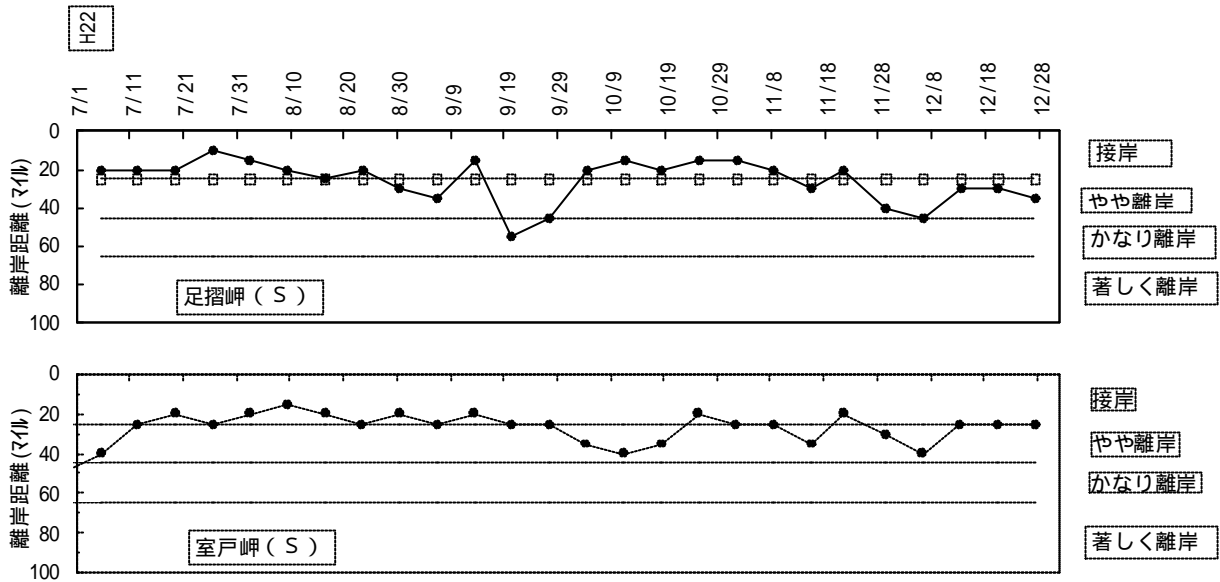


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

## 2 沿岸水温

沿岸定線調査による8～12月の土佐湾沿岸域の水温は、表層で「平年並み」から「著しく高め」、中層で「平年並み」から「やや高め」、下層で「平年並み」から「やや高め」でした。8月は、0m及び50m層において「平年並み」、100m及び200m層において「かなり高め」でした。9月は0m層で「著しく高め」、50m層で「やや高め」、100m及び200m層で「やや高め」でした。10月は0m及び50m層で「かなり高め」、100m及び200m層で「やや高め」でした。11月は0m及び50m層で「やや高め」、100m層で「著しく高め」、200m層で「かなり高め」でした。12月は0m及び50m層で「かなり高め」、100m層で「著しく高め」、200m層で「平年並み」でした。

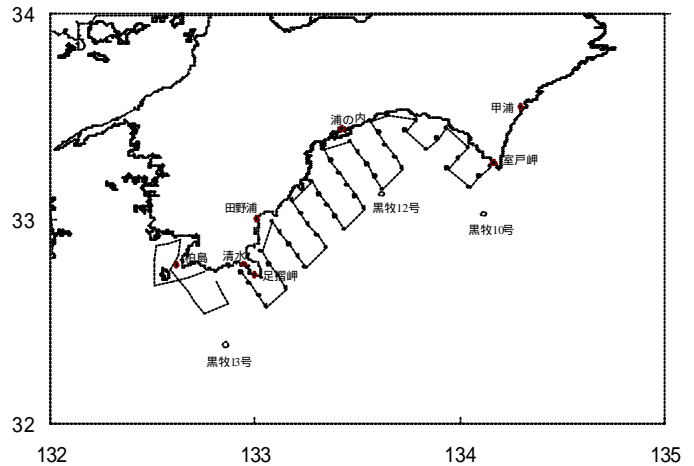


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成22年7月	+-	-	-	--
平成22年8月	+-	+-	++	++
平成22年9月	+++	+	++	++
平成22年10月	++	++	+	+
平成22年11月	+	+	+++	++
平成22年12月	++	++	+++	+-

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3～2.2
+	やや高め	0.6～1.3
+-	平年並(+基調)	0.0～0.6
---	著しく低め	-2.2 以下
--	かなり低め	-1.3～-2.2
-	やや低め	-0.6～-1.3
-+	平年並(-基調)	0.0～-0.6

### 3 特異現象

#### 海況

- ・沿岸定線観測において、11月の100m層の水温が過去5番目の高水温を記録した(1975年以降、欠測年あり)。

#### 漁況

- ・9月、沖合底びき網で、この時期に100m深より浅い海域に生息するチダイが200m深で多獲された。

#### 【今後の見通し(平成23年1~6月)】

##### 1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、1~3月はN型流路で推移し、4月以降にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：都井岬沖の小蛇行は、1月にその一部が東進、2月に再発達、3~4月に四国沖を東進する見込みです。小蛇行形成に伴う都井岬沖野離岸傾向は3月まで継続し、その後は接岸傾向となる見込みです。足摺岬沖~潮岬沖では、接岸傾向であるが、都井岬沖の小蛇行の東進に伴い離岸し、その後は接岸傾向となる見込みです。

##### (根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

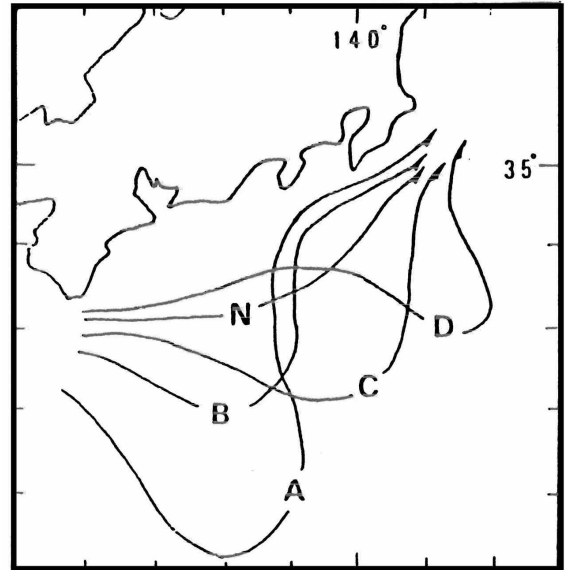


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

##### 2 沿岸の水温

「平年並み」で推移する見込みです。

##### (根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(12月22日発表、予報期間1~3月)によると、期間中の平均気温は「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

# 漁 況

## Ⅰ サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

### 【漁況経過(平成22年8~11月)】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は751.7トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年比90%、平年比(以下、平年とは平成11年から平成20年の10年間の平均値を示します)84%でした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体は尾叉長27~31cmのゴマサバでした。

(2)定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は79.8トンで、前年比568%、平年比120%でした。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。

(3)釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は220.0トンで、前年比69%、平年比49%でした。土佐清水を主とする魚体測定の結果、漁獲の大半はゴマサバで、前年同様3歳魚(平成19年生まれ)以上のものが大半を占めました。

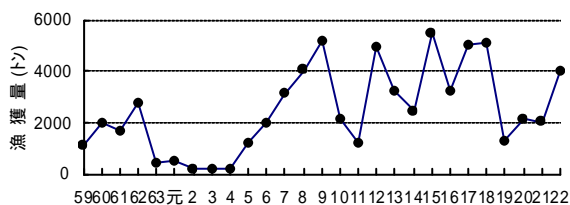


図5 サバ類漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

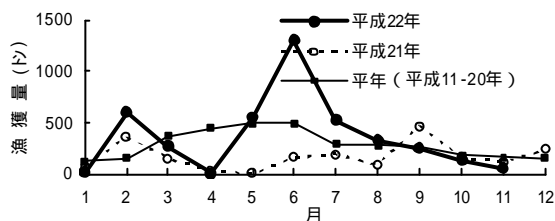


図6 サバ類月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

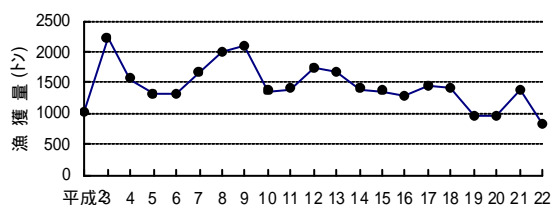


図7 サバ類漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

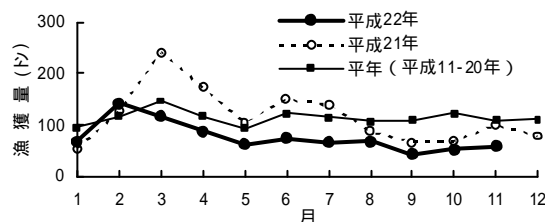


図8 サバ類月別漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

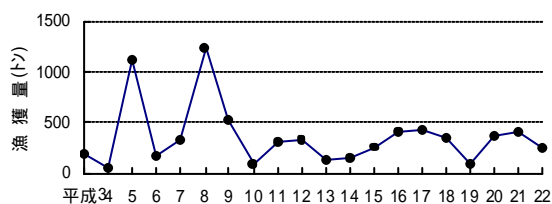


図9 サバ類漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

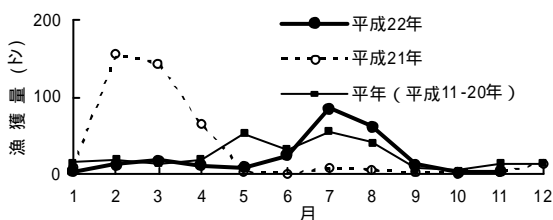


図10 サバ類月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県:日向灘のまき網による8~11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に5,806トンで、前年比162%、  
平年比141%でした。

愛媛県:豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8~11月の総漁獲量は1,402ト  
ンで前年比76%、平年比96%でした。

和歌山県:紀伊水道外域の2そうまき網による7~11月の総漁獲量はゴマサバ主体に4,127トンで、  
前年比235%、平年比187%でした。

### 【漁況予測(平成23年1~6月)】

(1)漁獲対象:1歳魚(平成22年生まれ)、2歳魚(平成21年生まれ)、3歳魚(平成20年生まれ)

(2)来遊水準:

- ・ゴマサバ:1歳魚は前年を下回り、2歳魚は前年を上回ります。3歳魚以上を含めた全体として  
は、前年並みと考えられます。
- ・マサバ:1歳魚の来遊量は前年を下回り、2歳魚は前年を上回るものの、依然、低水準で推移す  
る見込みです。

(参考)前年(平成22年)1~6月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網:2,752.3トン

定置網(窪津・椎名合計):77.9トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計):545.3トン

説明:

ゴマサバ:ゴマサバ太平洋系群の平成22年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されて  
います。近年の生まれ年ごとの水準は、3、5、6歳魚(平成20、18、17年生まれ)が低く、  
1、2、4歳(平成22、21、19年生まれ)が高いと考えられています。ただし、1歳魚の推定加  
入量(0歳魚の発生量)は近年の平均並みで、2歳魚を下回ると予想されていることから、1歳魚  
の来遊量は前年を下回ると予想されました。平成22年8~11月の漁獲は概ね前年並みか平年を下  
回りました。しかし、2歳魚の加入量は、過去10年で2番目に多いと推定されていることから、  
前年並みの漁獲が見込まれると思われず。

マサバ:マサバ太平洋系群の平成22年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されて

います。全国的な調査の結果から、主に2歳魚の期間中の本県への来遊量は前年を上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

## II マアジ

### 【漁況経過（平成22年8～11月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は234.1トンで、前年比95%、平年比49%でした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が60.2トンで、前年比147%、平年比57%でした。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は174.0トンで、前年比84%、平年比47%でした。体長測定から、0歳魚（平成22年生まれ）が主体であったと考えられました。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は87.6トンで、前年比329%、平年比81%でした。

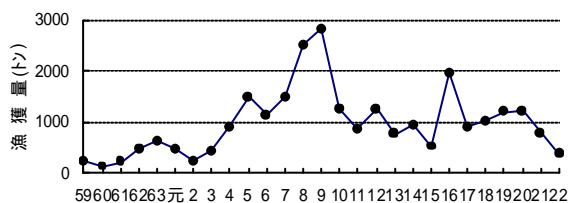


図11 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

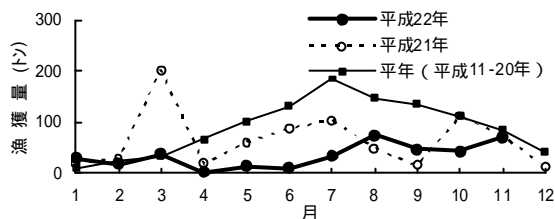


図12 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

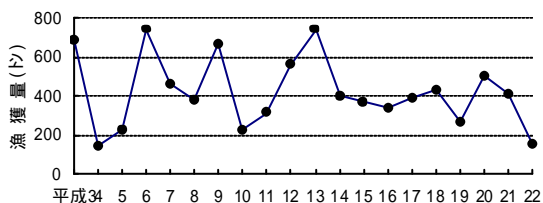


図13 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

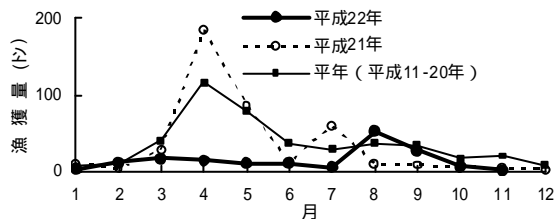


図14 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は237トンで、前年比62%、平年比24%でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,021トンで、前年比101%、平年比55%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による7～11月の漁獲量は、395トンで、前年比44%、平年

比 30%でした。

#### 【漁況予測（平成 23 年 1～6 月）】

- (1) 漁獲対象：0 歳魚（平成 23 年生まれ）、1 歳魚（平成 22 年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：宿毛湾、土佐湾以東ともに前年並みから上回ると考えられます。

（参考）前年（平成 22 年）1～6 月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：114.1 トン

定置網（窪津・椎名合計）：65.0 トン

説明：

本県の平成 22 年上半期におけるマアジの来遊は低水準でしたが、下半期になって今期の主体となる 1 歳魚（平成 22 年生まれ）が来遊してきました。予測期間の後半には 0 歳魚（平成 23 年生まれ）も来遊すると考えられますが、これらはまだ生まれていないため、その水準はわかりません。以上のことから、全体として前年並みから上回る来遊と考えられます。

### III マイワシ

#### 【漁況経過（平成 22 年 8～11 月）】

##### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 76.6 トンで、前年（0 トン）を上回り、平年比 11%でした。9 月の魚体は体長 15cm 台の 0 歳魚でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による漁獲量は 4.1 トンで、前年 230%、平年比 10%でした。



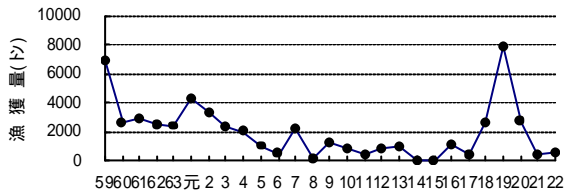


図15 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

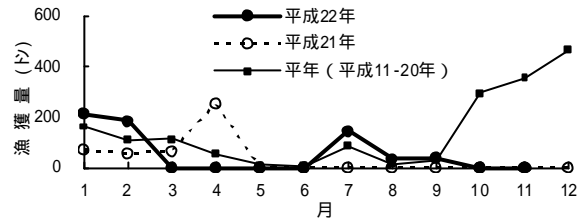


図16 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

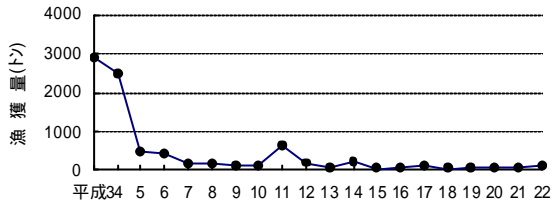


図17 マイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

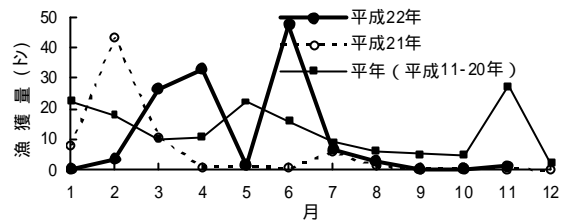


図18 マイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月における総漁獲量は0トンでした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部に若干の漁がみられ、8～11月における総漁獲量は0.6トンで前年比319%、平年比0%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による8～11月の総漁獲量は12トンで、前年比60%、平年比7%でした。

### 【漁況予測（平成23年1～6月）】

(1) 漁獲対象：1歳魚（平成22年生まれ）主体で、予測期間の後半には0歳魚（平成23年生まれ）も漁獲されます。

(2) 来遊水準：前年並みから下回ると考えられます。

（参考）前年（平成22年）1～6月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：399.2トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：112.0トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県も含めた西日本各地では、今期の漁獲主体となる1歳魚（平成22年生まれ）の来遊水準は低いと考えられます。予測期間の後半には0歳魚（平成23年生まれ）も来遊しますが、その水準は現時点では分かりません。これらのことから、散発的な来遊で前年並みから下回る来遊と考えられます。

## IV カタクチイワシ

### 【漁況経過（平成22年8～11月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は95.5トンで、前年比58%、平年比72%でした。銘柄別では幼魚「ドロ」が75.9トンで、前年比140%、平年比401%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は19.6トンで、前年比18%、平年比17%でした。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は0.3トンで、前年比4%、平年比14%でした。

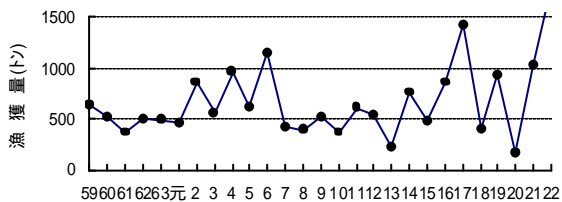


図19 カタクチイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

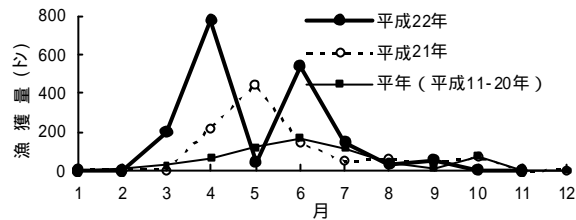


図20 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

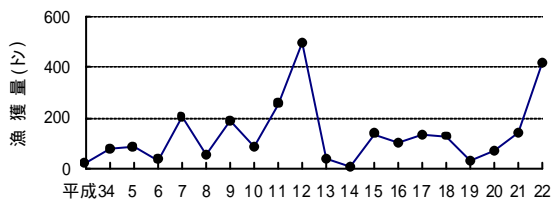


図21 カタクチイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

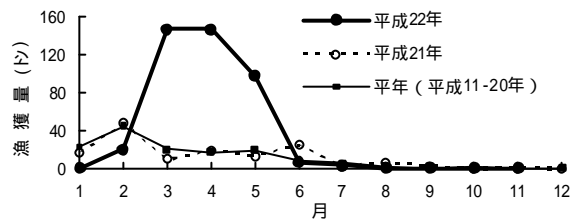


図22 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は100トンで、前年比3%、平年比9%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は382トンで前年比23%、平年比31%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

### 【漁況予測（平成23年1～6月）】

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向にあると考えられます。高知県海域では、下半期に主要な漁獲対象にならないため、県下の漁況経過から動向を判断することが出来ません。

(参考) 前年 (平成 22 年) 1~6 月のカタクチイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 : 1,558.8 トン

定置網 (窪津・加領郷・椎名合計): 417.3 トン

### V ウルメイワシ

#### 【漁況経過 (平成 22 年 8~11 月)】

##### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1,144.8 トンで、前年比 70%、平年比 240%でした。体長測定から、8 月以降は 0 歳魚 (平成 22 年生まれ) を漁獲していたと考えられました。
- (2) 定置網 (窪津・椎名 2 水揚地合計) の漁獲量は 17.2 トンで、前年比 117%、平年比 32%でした。体長測定から、9 月は 0 歳魚 (平成 22 年生まれ) を漁獲していたと考えられました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁 (土佐湾中央部) による漁獲量は 2.2 トンで、前年比 32%、平年比 16%でした。

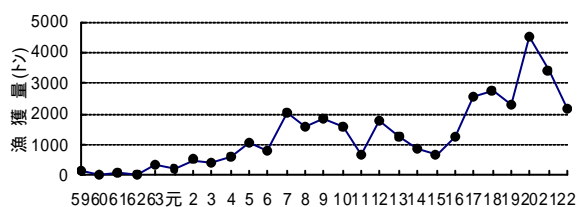


図23 カメイワシ漁獲量の推移 (中型まき網: 宿毛湾)

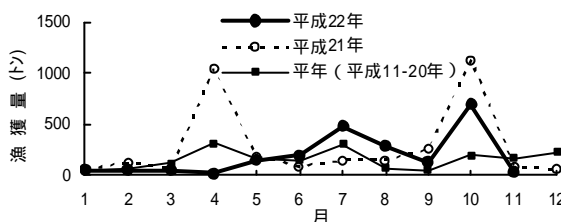


図24 カメイワシ月別漁獲量の推移 (中型まき網: 宿毛湾)

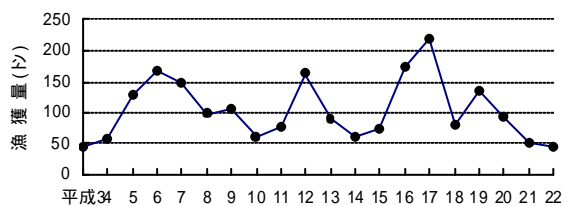


図25 カメイワシ漁獲量の推移 (窪津・椎名: 大型定置網)

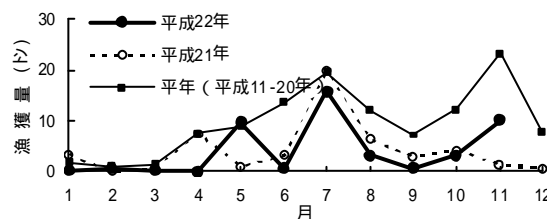


図26 カメイワシ月別漁獲量の推移 (窪津・椎名: 大型定置網)

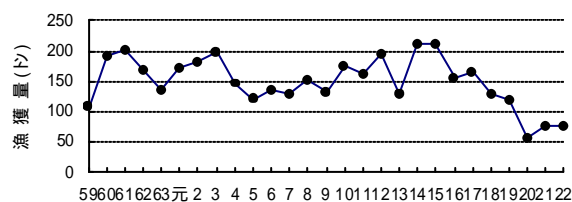


図27 カメイワシ漁獲量の推移 (宇佐: 土佐湾中央部 多鈎釣)

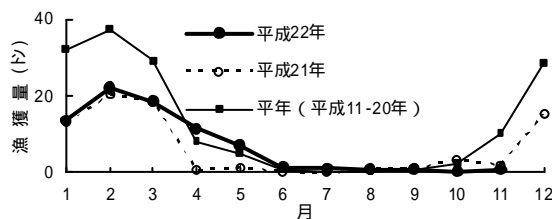


図28 カメイワシ月別漁獲量の推移 (宇佐: 土佐湾中央部 多鈎釣)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 8～11 月の総漁獲量は 1,349 トンで、前年同期比 43%、平年比 33% でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による 8～11 月の総漁獲量は 551 トンで、前年比 29%、平年比 82% でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における 1 そうまき網は、8～11 月の総漁獲量が 148 トンで、前年比 446%、平年比 122% でした。

### 【漁況予測（平成 23 年 1～6 月）】

(1) 漁獲対象：1 歳魚（平成 22 年生まれ）主体に、期の後半には 0 歳魚（平成 23 年生まれ）も漁獲されます。

(2) 来遊水準：前年並みから上回ると考えられます。

（参考）前年（平成 21 年）1～6 月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：522.7 トン

定置網（窪津・椎名合計）：11.1 トン

多鈎釣漁（宇佐漁協）：73.8 トン

説明：

ウルメイワシの資源状態は、近年高水準で推移してきましたが、平成 22 年（2010 年）から中位となり、動向も減少に変わりました。本県においては、平成 22 年下半期の漁況経過から、今期の主体となる 1 歳魚（平成 22 年生まれ）の来遊状況は前年並みと考えられます。これらのことから、不漁であった前年並みから上回る来遊と考えられます。

## VI シラス

### 【漁況経過（平成 22 年 8～11 月）】

#### 1 高知県

機船船曳網（安芸地区 4 水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計）による漁獲量は 137.5 トンで、前年比 105%、平年比 120% でした。魚種組成はカタクチイワシが主体でした。

## 2 周辺各県の経過

大分県：佐伯湾における 8～11 月の漁獲量は 15.7 トンで、前年比 112%、平年比 14%でした。

徳島県：紀伊水道内における 8～11 月の漁獲量は 770 トンで、前年比 189%でした。

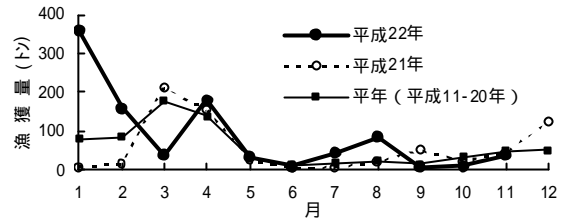
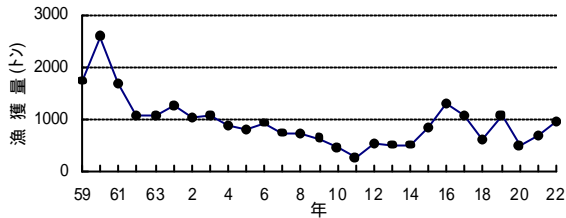


図29 シラス漁獲量の推移 (安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協) 図30 シラス月別漁獲量の推移 (安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

### 【漁況予測 (平成 23 年 1～6 月)】

シラス漁況は不確実性が高く、特に 3 月以降の漁況を現時点で判断することは難しいことから、予測が困難です。